

園児の探究心育成評価

子どもたちの探究心を育む取り組みをまとめた加古川市立尾上幼稚園（尾上町長田）による論文が、ソニー教育財団（東京）の「幼児教育支援プログラム」で「優秀園」に選ばれた。園児が泥団子作りで土の性質変化に興味を持つ様子や、年齢で関心を持つ部分が異なることなど、細やかな考察が評価された。

（宮崎真彦）

加古川市の尾上幼稚園 東京の財団が「優秀園」選出

泥団子作り通じ「科学する心」



優秀園の表彰状を手にする森川綾子園長（中央）と尾上幼稚園の園児ら＝加古川市尾上町長田

2024年度は子どもの「科学する心」をテーマに論文を募集。全国の幼稚園や保育所、認定こども園から148件の応募があり、優秀園に7園が選ばれた。尾上幼稚園が論文を応募するのは21年度以来、2回目。加古川市内の公立幼稚園で優秀園選出は初という。論

文の執筆は森川綾子園長（53）と職員4人が担当した。県内からは今回、芦屋市立宮川幼稚園と、尼崎市の認定こども園「七松幼稚園」の論文も優秀園に選ばれた。

尾上幼稚園は、県内の公立園で最も広い約4400平方メートルの園庭を舞台に、園児らの水、泥、土遊びを論文の題材にした。3、4、5歳児ごとに、遊びから読み取れる科学に関する会話

や行動などを考察した。

3歳児は泥の感触の心地よさから、科学的な興味を示したという。4歳児は泥の性質変化による硬さと軟らかさへの気づきを楽しんだり、次の変化を想像したりする様子が見られた。5歳児は、人と自然の博物館（三田市）の学芸員を「泥団子博士」として講師に迎え、遊びを通じて泥の性質を学んだ。着色した乾いた砂を泥団子にまぶし、泥団

子の色や硬さが変わる様子を体感した。

審査委員会からは、同園の論文について「『やってみたい』という子どもたちの細やかな動きを捉え、年次ごとの実践事例から子どもたちの試行錯誤が生まれ、いくつかのプロセスが分かりや

すく伝わった」などと講評された。

森川園長は「保護者の理解もあって、職員の取り組みが形として評価された。遊びという実体験を通じて学ぶのが大切だとより認識できた」と話した。

日本料理
しげ真
079
427-4055